

## 2-2 海外研修 訪問先所感

### JICA 兵庫 教師海外研修 in Vietnam 7月30日(木)～7月31日(金)

#### 7月30日(木)

##### ◆JICA ベトナム南部連絡所 (ホーチミン市)

##### ■目的:ベトナム滞在に際してのブリーフィング、ベトナムにおける JICA 事業の説明

- ・ベトナムの高校進学率50%、大学15%という状況は、日本の1960年代と同じであるという点、小学校は義務教育ではなく、2010年に就学率99%を目指しているという点が印象深く残った。
- ・社会主義国という背景があり、市場経済が定着した国とは違った生活だということ、インフラに関してまだまだ整備していくなければならないこと、整備には技術とともに資金が必要となることを意識させられる内容であった。
- ・数少ないスタッフで、ベトナムの事業を所管する、その仕事量の多さもさることながら、日越外交の先端を担う責任は重大であると感じた。所長を中心に日頃からきめ細かな人と人のつながりが作られていると思った。

#### 7月31日(金)

##### ◆ドンナイ省障害孤児センター



##### ■目的:青年海外協力隊の活動視察、ベトナムの福祉事情を知る

- ・ベトナムにも特別支援の学校があることが知られてよかったです。孤児センターの子どもは外にあまり出られないことを聞き、センターで働いている人の人数不足の問題などが見えてきた。職員の方が自らの子育ての経験を生かして仕事をしていることに驚いた。
- ・本当に手をさしのべるべき重度の障害を持つ子どもや貧しい子どもが家から出られない環境があることを知り、切ない気持ちになった。子どもの状況は様々であるが、家族の愛情が不足している子どもたちがその多くを占めるかと思うと、私も職員の立場で何かできないか自然に考えていた。
- ・日本でも近年、特別支援教育に注目が集まり、その体制づくりや校内での支援内容についての研究が進んできているが、ベトナムでも、各省にこの施設と同じような施設が建設されており、障害児(者)の受入施設等の拡充は、予想外に進んでいることがわかり驚いた。ただ、その中で行われている教育の中身や支援内容、子どもたちに与えられている教材、教具といったものは不十分なもので、日本に比べて発展途上にあるという感じがした。

##### ◆日系企業視察 (ベトナム味の素有限会社)



##### ■目的:日系企業訪問により海外で働く日本人について知る、日本とベトナムのつながりを考える

- ・商品の偽物が出回るほどの人気には驚いた。また、「旨味は世界共通、その上に現地の食文化をのせていく」という様に現地の食文化を大切にし、環境対策も法令以上の基準で取り組むなどの姿勢や企業努力が印象的だった。
- ・経済的な成功の陰にある工夫と努力の姿勢を強く感じた。悪路でも、辺境の村でも、商品を運んでいき、こまめに集金に行くという販売方法に感心した。
- ・短期間に企業が発展・成長した理由について質問したところ、ベトナム人独特の味覚を尊重しながら、より美味しく食べられるよう工夫し、上から目線ではなく、現地のため、現地に溶け込む姿勢を貫いてきているところに現在までの発展があるとの答えが返ってきた。その姿勢に感銘を受けた。
- ・日本へ逆輸入する製品を作っている会社と思っていたら、ベトナム工場は国内だけをマーケットにしていると聞き、意表を突かれた。また、日系企業は環境に配慮した会社運営をしているといった話などは、日本でも見習う点が多いと感じた。

##### ◆日越人材協力センター



##### ■目的:技術協力プロジェクト視察、日本語を学ぶベトナム人学生との交流

- ・念願のテレビ会議システムを日本↔ベトナムで実施することが出来た。
- ・教師に対する尊敬の念が日本と違う。私たちに対しても尊敬の念をもって接してきた。また意欲的に質問してくれる態度や高い日本語力から強い向上心を感じた。
- ・日本語を学ぶ姿勢のひたむきさ、先生を大切にする姿勢の誠実さ、どれをとっても日本の学生にも紹介したいものだった。
- ・日本語を学ぶ大学生と会話した。日本語を実際に使う場がほとんどないということから、とても意欲的に話しかけてきた。学生達から、高い学習意欲が感じられた。
- ・日本に対する興味が高く、学生は、持参した日本の写真を見ながら、これは日本語で何というかなど積極的に質問を投げかけてきた。学生たちの意欲から、将来、さらに國力が伸びる可能性を感じた。
- ・ベトナム全土で日本語を学ぶ学生が3万人おり、日本に留学したい、日系企業に就職したいという思いが強いことに驚いた。しかし、最終的に学生達はベトナムで働くことを望んでおり、彼らの國を豊かにしたいといという信念とハングリー精神には頭が下がる思いである。また、ODA は箱物を作る事業が多いというイメージが強いが、ソフト面でのサポートもなされていることに気付かされた。

## JICA 兵庫 教師海外研修 in Vietnam 8月1日(土)～8月2日(月)

### 8月1日(土)

#### ◆ベトナム企業訪問

(Anco Company Ltd)



#### ■目的:ベトナム企業訪問により生産現場の労働環境などを知る

- ・環境対策ができていないというイメージがあったがそうではなく、法令が整備され第三者機関が検査するなど、環境面からもベトナムの発展を感じた。
- ・一視察団である我々に対して社長がとても丁寧に対応して下さった。ヨーロッパ向け輸出家具を扱っている企業であるだけに、労働者の雇用条件を守ることが消費行動に直結する、現在の欧米の事情を表しているようで新鮮だった。
- ・ヨーロッパのクライアントが労働条件や環境に配慮した仕事をしているか否か目を光らせていることが、会社の向上につながっていると思われる。また、素材はすべてベトナム製のものを用いており、自国の産業を大切にしている表れと思われる。手作業であること、黙々と働く姿など昔の日本と重なる部分が多いと感じた。

#### ◆ベトナム企業訪問

(Mirh Phuong Furniture Company Ltd)



#### ■目的:日本向け商品の生産現場を視察し、日本とベトナムのつながりを感じる

- ・日本向けの企業なので、作業が細かく行われていた。何度も磨き、塗装し丁寧に箱詰めされていた。どこの企業も同じだと思うが、若い働き手が多くいた。労働条件は完璧ではないが、日本と同じ様に義理人情を心がけていることが印象に残った。
- ・工場の至るところに日本的な生産管理の看板が設置されていた。JICAの支援によるもので、それにより品質や安全の確保がなされているということだった。
- ・日本向け輸出家具を扱っている企業では、ヨーロッパ向けの企業と違って、労働者の労働条件よりも価格が安いことが大切であるように感じた。それはまさに、日本の消費者の責任であって、日本では感じなかつた恥ずかしさを感じた。

#### ◆ホーチミン市内視察

(戦争証跡博物館、郵便局、ベンタイン市場)など



#### ■目的:市内視察により日本との違いを体験する、ベトナム戦争に関する理解を深める

- ・戦争証跡博物館ではベトナム戦争について学ぶことができた。一度ベトナム戦争について授業をしていたが写真・展示品を見て改めて知ることもありよかったです。ベンタイン市場では、値段交渉をして買い物ができる、楽しいひと時となった。
- ・戦争証跡博物館では、来場者の多くが欧米人であった印象が強い。
- ・現在の暮らしからは戦争という過去を感じることはないが、戦争証跡博物館に展示してあるものを見ながら、確実にこの地で痛ましい過去があつたことを知らされた。
- ・ベンタイン市場に限らないが、「本当に女性がよく働く国だなあ」ということ。開店の準備をするのも女性、呼び込みするのも女性、もちろん値段交渉するのも女性、店じまいするのもやっぱり女性。

### 8月2日(日)

#### ◆タンソンニヤット国際空港



#### ■目的:有償資金協力(円借款)事業の理解を深める

- ・空港の壁に日本政府からの円借款で建設されたことを明記したプレートがあり、日本人として誇りに思いました。しかし、関西国際空港より立派だったので、複雑な心境でした。
- ・近代的な空港が日本の支援で作られていることが誇らしかった。内部の機材は日本製のものと、韓国製のものがあった。すべて日本製にすると、支援は日本企業のためのものだと非難されるが、他国の製品があるのも複雑な気持ちである。
- ・職員の案内により、荷物カウンターの裏側で働く人々の様子なども見ることができた。
- ・円借款で建てられたことをベトナムの人々が知っていることを知り、日本もかつて借款により新幹線を整備されたことをどれだけの日本人が知っているのだろうかと思った。

#### ◆ハノイ市内視察



#### ■目的:ハノイ市とホーチミン市の違いを感じる、ベトナムでの日常を体験する

- ・フランス統治下の建築物が残っており、アジアに居てパリの雰囲気を味わえました。
- ・ハノイは、旧都の雰囲気で、日本の京都を連想させた。湖・川・街路樹・土産物屋、そして人のにぎやかさが、ホーチミン市の都会感とは少し違って、心が落ち着く感じがした。
- ・ホーチミン同様、バイクの多さに驚かされた。交通事故が多いこともあり、数年前からヘルメットの着用が義務付けられたことなど、ルール作りが進んでいることを感じた。
- ・ベトナムコーヒーを保護する観点から外資系カフェ(スターバックスなど)がまったく見当たらなかったことには驚いた。

## JICA 兵庫 教師海外研修 in Vietnam 8月3日(月)

### 8月3日(月)

#### ◆リ・トゥン・キット中学校訪問



#### ■目的:ベトナムの教育事情を知る、生徒との交流を深める

- ・日本語の歌を歌い、ベトナムの紹介を絵で表していた。卒業生には大臣になった人もいる学力レベルの高い学校だった。5年前から日本語教室がはじまり、卒業後も日本語を勉強する生徒がいることに驚いた。
- ・「問題にはその背景があり、それを見る」「学習だけでなく、性格を育てる」という意見交換から、日本でもベトナムでも教育の根本は同じなのだと実感した。
- ・素直でよくできた優秀な子ども達のいる中学校だった。認められ、自信のある子ども達の様子は、日本と同じだと感じた。
- ・大半の子ども達が「ベトナムを象徴する物」として、国旗をまず描き始めたことに驚いた。社会主義という国家背景からか、子どもたちは、先生の指示をよく聞き、動いていた。
- ・日本で課題となっているモンスター・ペアレンツの存在については、ベトナムでは考えられないことのようである。親、教師を敬うことに対して絶対的なものがある。近年の日本とは異なっている。
- ・この学校に通うほとんどの子どもは意識も高く勤勉であるが、生活面を含めた個別指導が必要な場合はベテラン教員が対応するなど日本と類似する点も多い。教育の目的は人格形成であることに国境はないを感じた。小中学校の教員はほとんど女性であることも新しい発見であった。

#### ◆JICA ハノイ事務所



#### ■目的:ベトナムにおけるODA事業の方針について説明を受ける

- ・JICA事業の話が聞けた。丁寧に水環境改善事業の話が聞けたので、ハノイ市を見て回ったときにわかりやすかった。
- ・インフラ整備を始めとする円借款の役割や共産党の抱える問題を聞くことができた。また、防災教育の発信地としての兵庫との関わりについても聞くことができた。
- ・JICAの活動の幅が広いこと、また現地で働く日本人の熱意に感心した。地方では経済格差が見られ、政府の支援と企業のボトムアップを計ることが必要だと感じた。

#### ◆ハノイ水環境改善事業



#### ■目的:有償資金協力(円借款)事業について理解を深める

- ・水は生きるために必要不可欠。洪水などが起きないように治水整備に尽力しているのが良く分かった。ポンプや下水道を広域エリアに整備させるには時間のかかる事業であるが、非常にやり甲斐のある事業だと思いました。
- ・水質改善されている水とそうでない水とでは、相当な差があることを目の当たりにした。
- ・ハノイという街の侧面を知った。生活を安定させるために水環境を整えていくことはとても重要な意味を持ち、技術は国境を越えて暮らしに繋がると感じた。
- ・この施設により、ハノイ市300万人の人口のうち、1万世帯が救われる。規模としては小さいが、こういった施設を作ることで、水環境が改善されるという効果を市民に理解してもらった上で、今後、中規模、大規模な施設を建設していく予定であるという。その事業普及の漸進的な手法に納得するとともに、見た限りでは、まだ水質はきれいに透き通っているという状況ではなかったが、以前より確実にきれいになっており、護岸をコンクリートで固めたことで、昨年秋の大暴雨の際も、洪水被害が出ることはなく、ハノイ市民のために、大きくこの事業が寄与していることに感銘を受けた。
- ・水環境が居住環境に格段の差を生むこと、人々に下水処理の大切さを知つてもらうための活動などインフラ整備と意識改革は急務であると思われる。一方で低所得層が沼地周辺で生活を営んでいる実態とそこで採れる空心菜が現金収入源となっていることなど、改善事業と生活保障は両輪であると再確認した。

#### ◆書店視察(教材収集)



#### ■目的:帰国後の授業実践で活用できる教材を収集する

- ・あふれる「ドラえもん」のコミックスや日本語学習教材の多さから日本への興味関心の高さを実感した。
- ・「ドラえもん」・日本語検定の本を買い求めた。数学の教科書の内容のレベルが高いという話を聞いて、理解の早い生徒と遅い生徒に差が出てしまうと感じた。
- ・「ドラえもん」の漫画が全巻揃っていることから人気の高さがうかがえた。思ったよりも整然とジャンル分けされ、多くの本が置いてあった。
- ・日本アニメの影響の大きさに驚くとともに、子どもの成長の妨げとなるような内容のアニメについては受け入れないスタンスなど、子どもの育ちを大切にする姿勢はすばらしいと思う。